



2025 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 4

SUPERBIKE RACE in MOTEGI



■ 栃木県
■ モビリティリゾートもてぎ
■ 1周=4.801379km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 **11** 関口 太郎

RACE 1

8月23日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ

予選 14 番手 (タイム: 1 分 51 秒 344)
決勝 8 位

RACE 2

5月25日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ

予選 13 番手 (タイム: 1 分 51 秒 410)
決勝 9 位



三明電気工事



酷暑のもてぎで両レースともシングルフィニッシュ！

2025年の全日本ロードレース選手権後半戦が8月23日（土）・24日（日）栃木県・モビリティリゾートもてぎで始まった。ここから9月にオートポリス、岡山と続き、10月の最終戦鈴鹿まで駆け抜けるように過ぎて行く。



鈴鹿8耐も暑かったが、今回のもてぎもそれに劣らない酷暑となった。事前テストは行われず、金曜日のフリープラクティスから走行を開始。30分が2本という時間の中で、マシンセットをまとめていく。まずは、開幕戦のテストで調子がよかったセットをベースにセッティングを進めていくが、思うようなフィーリングが得られず、その原因の追及に時間を費やしてしまっていた。タイムも1本目にマークした1分52秒017がベストになり、初日は総合13番手となっていた。



土曜日の公式予選では、タイムをもっと出したいところだったが、前日にタイヤチョイスの作業ができなかったため、その対応に追われていた。それでもレース1は14番手、レース2は13番手グリッドにつけた。



15周で争われたレース1。スタートダッシュを決めた関口は、オープニングラップで11番手に上がると、2周目にリタイアしたライダーがいたため10番手に浮上する。さらに前を走っていた長島選手がミスをしたため9番手に上がる。その後、追いついて来た長島選手にかわされるものの、前で転倒がありポジションは変わらず、長島選手をマークしたまま周回を重ねていき、12周目のダウンヒルストレートで関口が前に出る。後方から児玉選手が迫ってきていたが、しっかり抑え切り8位でチェッカーフラッグを受けた。



日曜日も最高気温37.1度、路面温度は60度を超える厳しい暑さに見舞われた。朝のウォームアップ走行を終えようというところで予期せぬトラブルが発生。レース2までに修復は不可能となったため、急遽Tカーで出走することになってしまう。

レース1より5周長い20周で争われたレース2。ここでも好スタートを切った関口は、レース1と同じく11番手で2周目に突入していく。Tカーのフィーリングを確かめつつペースを上げ前の集団を追っていく。厳しいコンディションだけに、サバイバルレースになることは分かっていた。すると8周目に1台が転倒、残り3周で1台がトラブルでリタイアとなったため、2つポジションを上げ9位でゴール。2レースともにシングルフィニッシュを果たした。



暑かったもてぎでしたが、三明電気工事様に今回もビット裏に冷房完備のプレハブを用意していただき、SDG様にウインドレーサーをビットに設置していただき、本当に助かりました。ありがとうございました。鈴鹿8耐に続き、今回のもてぎも非常に暑く厳しいコンディションでした。そんな状況の中、2レースともシングルフィニッシュできたのは良かったと思います。次戦オートポリスは事前テストはキャンセルしますが、その分気合を入れレースウィークに望みますので、引き続き応援よろしく願いいたします。

関口 太郎

